

2025年12月8日
日本船主協会 企画部広報室

港区の小学校で出前授業を実施
～海運や船員の仕事について紹介～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

11月20日（木）、当協会は日本船長協会と協力し、港区立笄小学校の5年生を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたのでその模様をお知らせします。同校での出前授業は2021年より実施しており、今回で5回目となります。

授業は2部構成で行い、前半は当協会から海運全般のことを、後半は日本船長協会から船や船員について話をしました。

前半では、生活の多くを外国からの輸入品に依存している日本では、貿易量のうち99.5%を海運が占めていることについて、クイズを交えて紹介しました。その後、日用品を運ぶコンテナ船を題材に授業を進め、コンテナ模型を見せてドライコンテナ（常温）とリーファーコンテナ（温度管理が可能）の違いを考えてもらったほか、白地図を使って外国から日本までの航路を考えるワークを実施しました。



当協会の授業の様子

後半は、児童全員が大きな声で「船長！」と呼ぶ声に応えて日本船長協会の船長が制服姿で登場し、船について、さらに詳しい説明や、船員の仕事について授業を行いました。



船長による授業の様子

コンテナ船以外にも、原油タンカーや自動車船等、様々な船があり、笄小学校の校舎（約75m）と、自動車船（約200m）、世界最大級のコンテナ船（約400m）を比較する画像を見た児童からは、そのスケールの大きさに驚きの声があがりました。

さらに航海士が使用する計器や、機関士が整備する巨大なエンジン等の写真を使って、船上の仕事内容と船員の勤務体系を紹介しました。児童は、様々な国の人と一緒に英語でコミュニケーションをとって働く外航船員に興味をもってくれたようでした。

また、船内での過ごし方について、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していること、海上では夕日や満点の星空を見られること、船内では陸上と同じようにWi-Fiを使えること等も写真で紹介しました。

その後、船員の仕事体験の一環としてロープワークを行い、児童は船長の実演を見ながら、エイトノットとボーラインノットという2つの結び方に挑戦しました。

授業の最後には、質疑応答を行い、児童からは「海賊を見たことはありますか」「いつ、なぜ船員になろうと思いましたか」等の質問がでました。

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。



船長の実演に沿ってロープワークに挑戦

以上